【基本情報】

教科	芸術	学年	1年	教科書	書道 I (教育出版)
科目	書道 I	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	墨心
科目概要	中学校国語科の書写における学習を基礎にして、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書及び鑑賞についての幅広い活動を展開し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことなどを狙いとしており、書道研究における発展的な学習の基礎を養う科目です。				
到達目標	漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書及び鑑賞について幅広く活動し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、書道実技が中心です。 プリントや鑑賞、書道理論なども適宜織り交ぜます。				
留意事項	「継続は力なり」・・・ただ提出された作品のみでなく、追求する過程も評価します。 楽しく伸びやかな表現を目指します。 書道用具は、評価の公平を期すために、全員同じ物を使用します。 書道用具は、書道室内に保管します。 移動・準備は、休み時間中に完了させてください。				
家庭学習					
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化の関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	10%	授業に対する姿勢や積極性を評価します。
B. 書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	20%	作品の変容の過程を評価します。 討論をする姿勢や、考えたことを伝えようとする積極性を評価します。
C. 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	60%	提出された作品を評価します。
D. 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	10%	書の美しさを知識として理解しているか評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	2	シラバスの説明 用具・用材の説明	○					1年間の授業内容を知る。
漢字仮名交じりの書1	2	中学校書写との連携	○		○	○		中学校書写を振り返る。
漢字の書1	6	臨書—木簡 作品制作	○	○	○	○		木簡の基礎を知り、親しむことができるようにする。
漢字の書2	6	篆書 篆刻 姓名印制作	○	○	○	○		篆書・篆刻方法を理解し、完成度の高い印を仕上げられるようにする。
漢字の書3	10	臨書—自由課題 作品制作（展覧会出品）	○	○	○	○		興味を持つ古典を選択し、調べ学習の後、特徴を表現することができるようにする。
漢字の書4	10	臨書—建中帖 作品制作	○	○	○	○		建中帖の特徴を理解し、表現できるようにする。 意欲的に知識や技術を得ようと活動する。
漢字の書5	6	臨書—蘭亭叙 作品制作	○	○	○	○		蘭亭叙の特徴を理解し、表現できるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。
漢字仮名交じりの書2	12	永訣の朝 作品制作	○	○	○	○		漢字仮名交じりの書の基本を理解し、表現できるようにする。 永訣の朝を理解し、詩情に合う表現を目指せるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。
仮名の書1	10	臨書—高野切第一種 作品制作	○	○	○	○		高野切第一種の特徴を理解できるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。